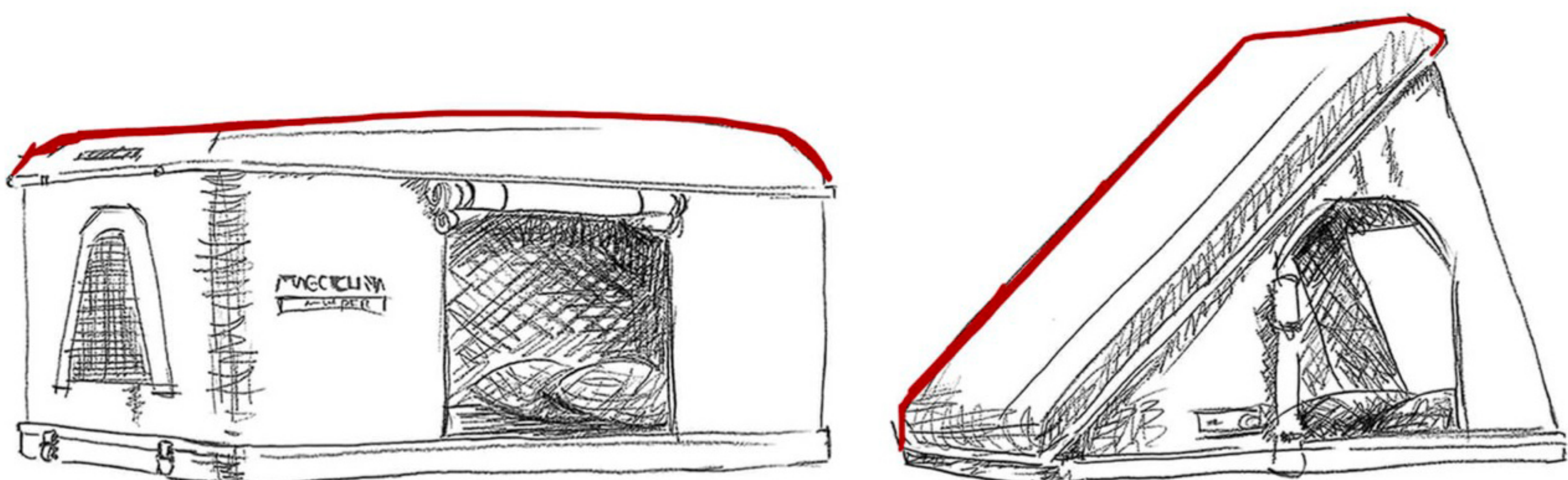




ACTIVE HARD SHELL PART 1

PROTECTION

AUTOHOME製ハードシェル・ルーフテントは、アウトドア分野で最も権威のある専門家によって「ACTIVE HARD SHELL」と定義されています。すなわち「アクティブ・ルーフを備えたルーフテント」という意味です。アッパーシェルは単に移動中のテントカバーという役割だけではなく、展開時にはテントの屋根そのものとなります。これは、屋外における使用においては、非常に高い信頼につながります。シェルを持ち上げると、その下の環境を完全に、積極的に保護することになります。つまり、展開後のアッパーシェルが実用性のない壁の一部や単純な蓋のような受動的要素ではなく、就寝時に屋根という重要な役割を果たしてくれるのです。

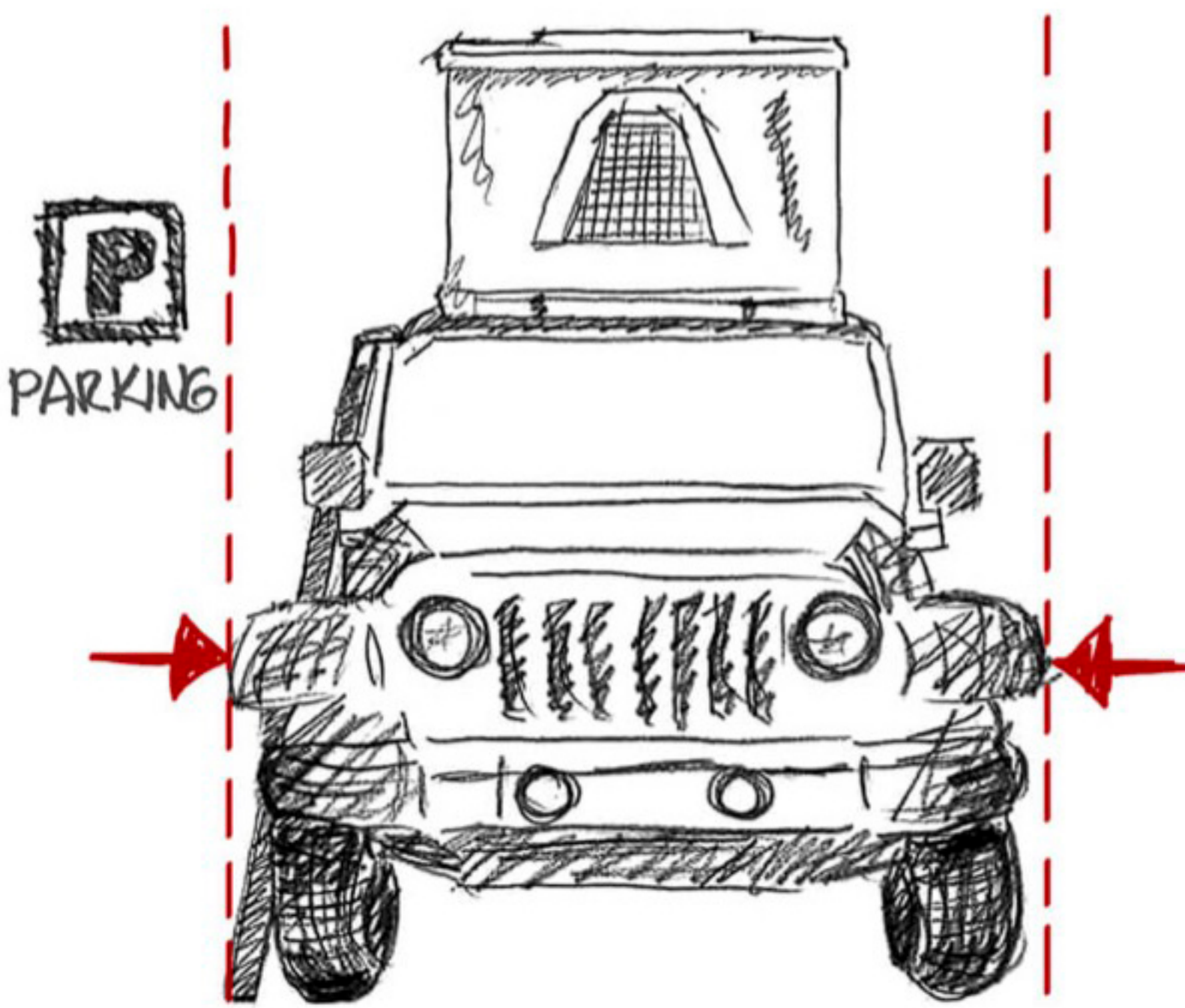


AHS®

ACTIVE HARD SHELL PART 2

FREEDOM

シェル型テントは、垂直に立ち上がります。オートホーム製ハードシェル型ルーフテントは、展開時ファブリックからラダーまで、すべての構造要素が車の外形に収まるようになっています。上方にのみ展開させるルーフテントは、サイドミラーに囲まれたスペースに収まるため、休憩所や駐車場の規制の対象とはなりません。（日本では宿泊禁止場所か確認要）



AHS®

実際には、キャンプ場に立ち寄ることなく、公共の場でもどこでも泊まれるということです。（日本では宿泊禁止場所か確認要）

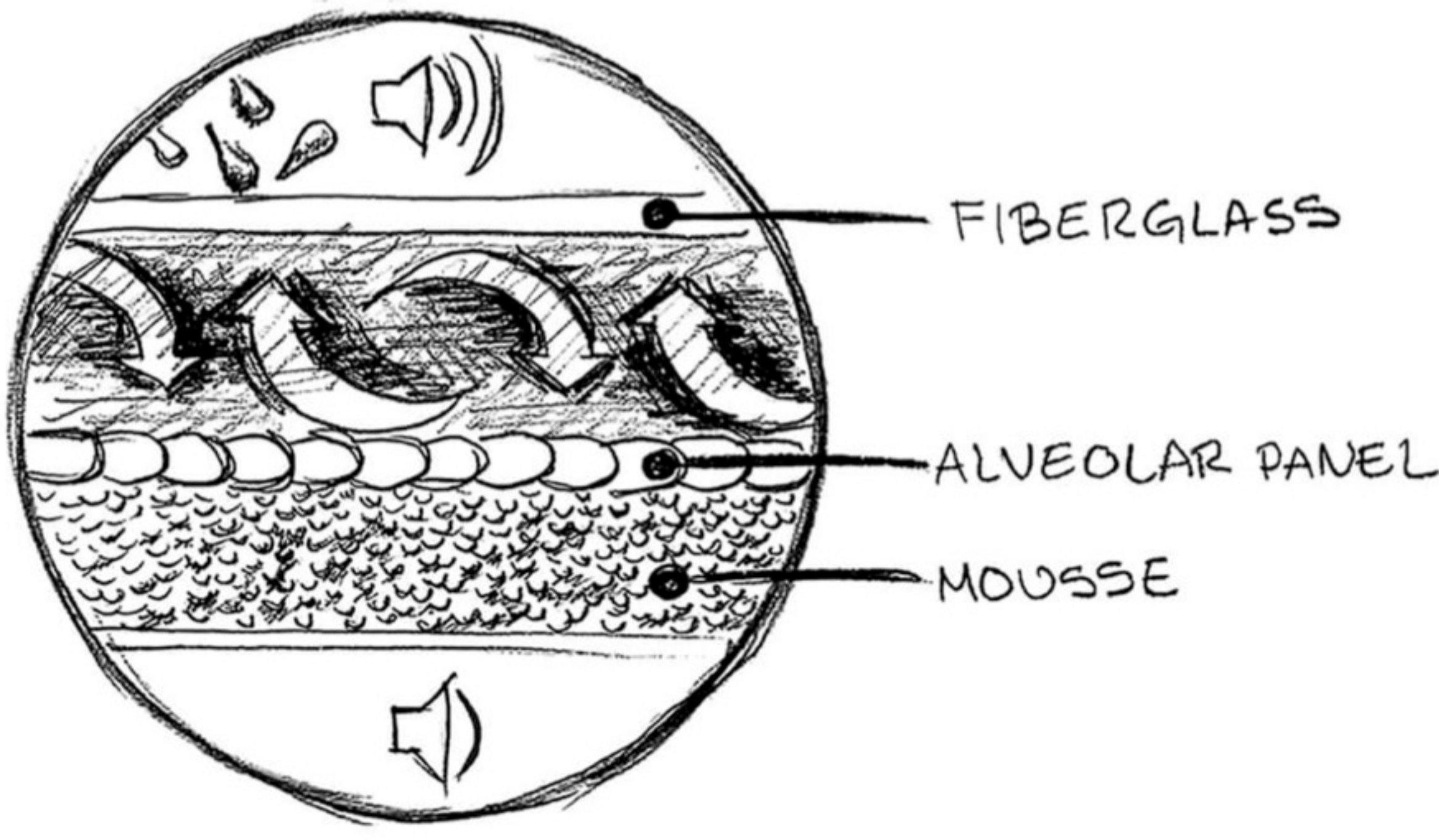
ACTIVE HARD SHELL PART 3

ISOLATION

市場で際立った存在感を放つ数々の高品質な要素に裏打ちされた特徴的なアイデンティティ。その基本的な要素のひとつがアクティブアングラーーフを備えたアッパーシェルで、細心の注意と適切な素材を用いて設計・製造された半硬質ヘッドライナーです。



一般的な塗材とは根本的に異なります。ルーフテントに使用されている多くのシーリング材は信頼性に欠け、品質の悪さを派手なデザインや目を引く色で覆い隠しています。さらに信頼性が低いのは、ほとんどがアジア系の低価格な材料を使用していることです。



AHS®

AUTOHOME製品だけにしかわからない、その違いは屋根から始まります

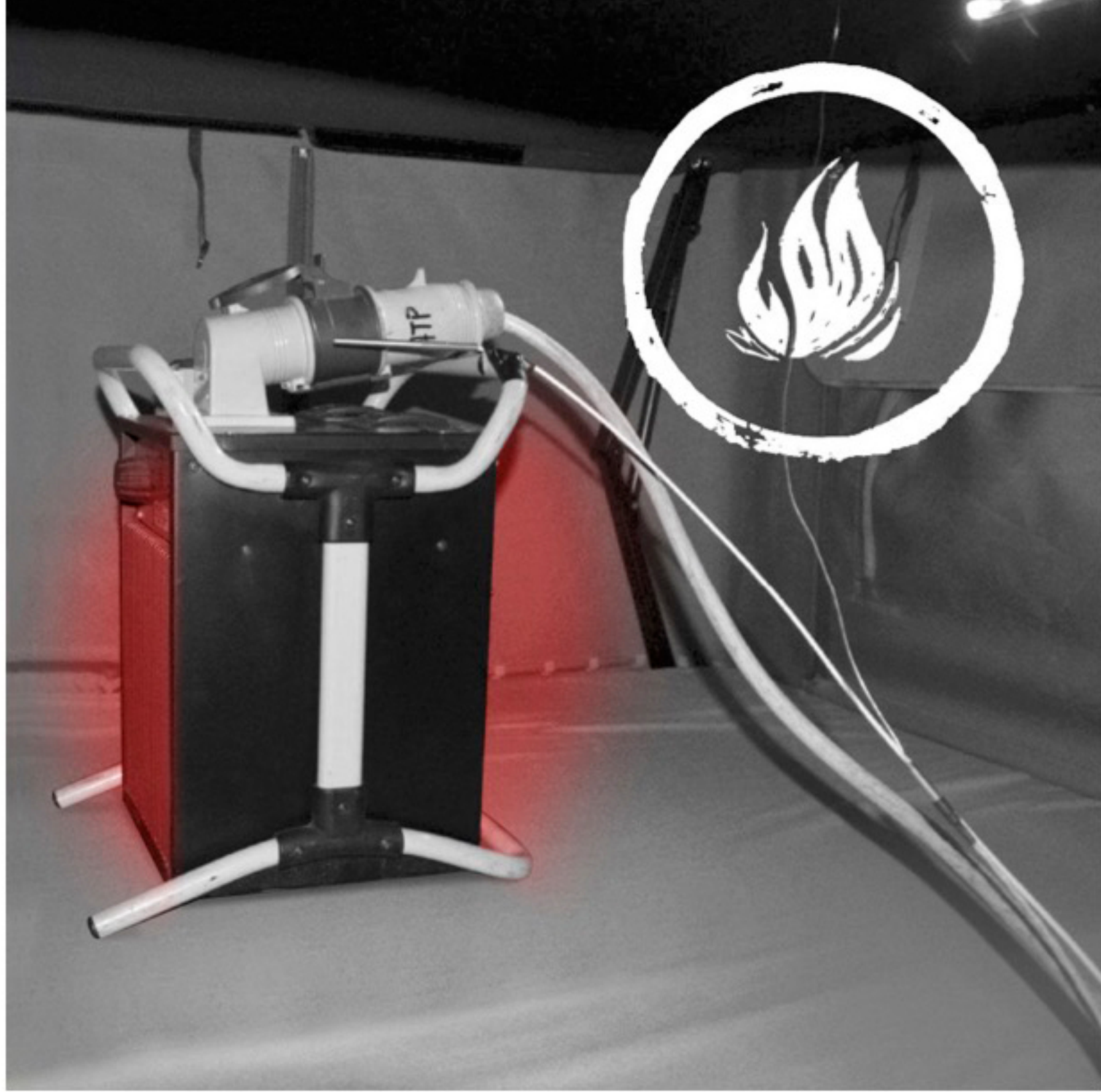
ISOLATION TEST

結露と室温

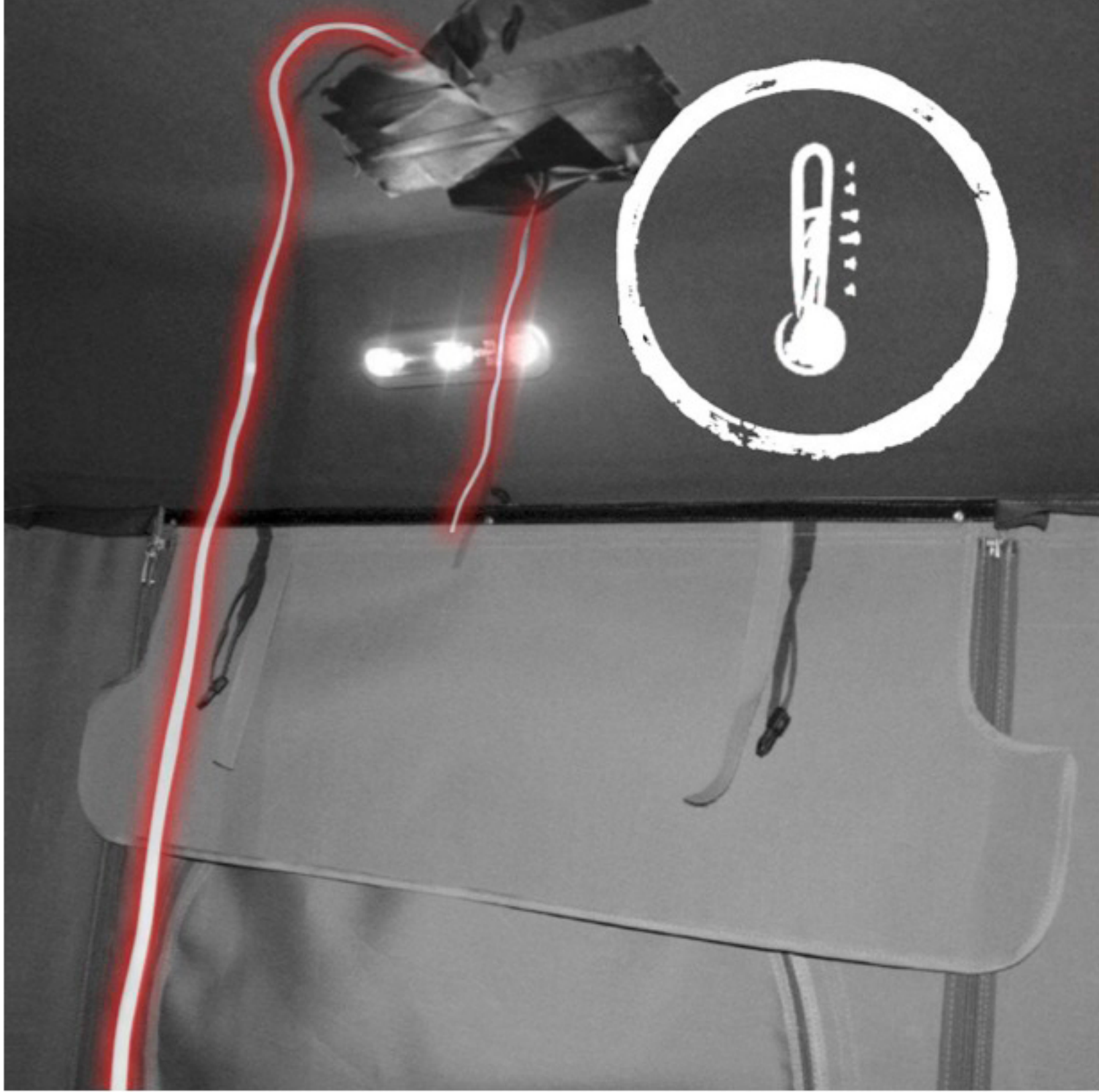
市場において議論の余地もない問題については、時に明確な説明を必要とされる攻撃にさらされることを意味します。そのため、ECE/TRANS219規格に準拠した恒温室での「結露・発熱試験」を実施し、競合他社による誤った情報・宣伝に反論しています。

企業向けサービスの分野で国際的に活動する認証・分析センターが実施したテスト。物理エンジニア、微生物学者からなるスタッフチームは、ヨーロッパの大学や研究センターとのコラボレーションを通じて、応用研究の学校でトレーニングを受けたスタッフから構成されています。

検査装置の画像



1. オートホーム室内に設置したヒーター



2.2. オートホームのテント内に設置された熱電対



3. オートホームテント内の蒸気発生装置

DIMENSIONS [CM]	THERMAL POWER W [W]	HEAT EXCHANGE SURFACE S [M²]	TEMPERATURE DIFFERENCE ΔT [K]	K [W/(M²·K)]
143 x 210 x 90	1250	12,13	24	4,30

THE RESULTS ARE SURPRISING:
AUTOHOME, THANKS TO THE QUALITY OF ITS FABRICS, REMOVES THE INTERNAL HEAT 24 HOURS A DAY.